

## 小諸市動植物の保護に関する条例に基づく 保護動植物の指定に関するお知らせ

小諸市は、自然環境の保全を図るとともに動植物を保護する意識の高揚のため、将来の世代に継承することを目的として「小諸市動植物の保護に関する条例」を制定しております。

この度、同条例に基づいた最初の保護動植物を指定しましたので下記のとおりお知らせするとともに、ぜひ取材の検討をお願いします。

小諸市動植物の保護に関する条例に基づき、下記の3種を保護動植物に指定しましたので、添付の詳細資料とともにご覧ください。

**なお、動植物の保護及び採取の防止のために、一部写真の公表はしませんので、ご承知おき頂くとともに、掲載にあたってご遠慮願います。**

- **アサマシジミ（チョウ目シジミチョウ科）※環境省絶滅危惧種（写真の掲載はご遠慮ください）**

開翅長3.0cmの小型。オスの翅表は黒地で内側は青色、裏面は灰色地に多数の黒斑紋と朱色の帯がある。メスは、翅表が黒褐色で後翅外縁に数個の朱色半月紋、裏面は白地に多数の黒斑紋と朱色の帯がある。

里地里山の管理放棄や人為が及びにくいとされる場所でも治山工事（砂防ダムや護岸改修など）などによって生息地が破壊されるなど影響を受けている。また、採集者の来訪や道路脇の草刈りによる食草の除去による影響も大きな減少原因となっている。

- **アサギマダラ（チョウ目タテハチョウ科）**

開翅長9.0～10.0cmほどの大型。半透明の水色（浅葱色）が美しいチョウであり、翅の外側前翅は黒、後翅は褐色で、半透明水色の斑点がまだら模様のように並ぶことから名づけられた。オスとメスの区別はつけにくい。オスは、翅を閉じたときに、尾にあたる部分に濃い褐色斑がある。

近年では、マーキングの関心度が高まってきていることにより、乱獲や落書きによる（迷子蝶）も増えているため、生態を把握するための調査に影響を及ぼしている。また、夏の猛暑や冬の寒波などの異常気象により個体数が減少してきている。

- **ハヤザキヒョウタンボク（マツムシソウ目スイカズラ科）**

高さ2mほどの落葉低木。枝はまるく、毛はない。葉は、対生で小さく、名前の由来のとおり、まだ周りの木々が芽吹く前の、春早い時期（3～4月頃）に枝先に白い花が2つ下向きに並んで咲く。果実は、径が1cm程度の球形で赤く熟す。「氷河期の生き残り」と言われている。

生存を脅かす要因は、森林伐採、シカの食害など。また、生育環境が岩崖地などの特殊な立地にあるため、山林の改変による生育環境の変化や生育地の破壊が要因であると考えられる。

### ■問い合わせ先

小諸市役所 生活環境課 担当：望月

TEL：0267-22-1700（内線2274） メール：kankyo@city.komoro.nagano.jp

### その他のイベント・お知らせ情報

人と猫が幸せに暮らすまちを目指して、ふるさと納税型クラウドファンディング実施中

URL：<https://www.furusato-tax.jp/gcf/2792>